

WEB会報



参院選の勝利に向け第2回大会を開催



郡山社民フォーラムは4月9日、福島県社民フォーラム代表の紺野長人県議、馬場雄基衆議院議員、小野寺あきこ参議院議員候補予定者をお迎えし、第2回定期大会を開催しました。

議案第1号「2022年度活動方針」、議案第2号「2022年度収支予算」、議案第3号「役員改選」、議案第4号「当面の活動について」をいずれも満場一致で可決し、闘争宣言を採択しました。

闘争宣言

本日、私たちは第2回定期大会を開催し、向こう一年間の活動方針を決定しました。

第一は、市議団とともに貧困と格差、新型コロナから「市民の暮らし」を守る取り組みです。

本年3月16日の深夜、福島県沖を震源とするマグニチュード7.4、最大震度6強の大きな地震がありました。交通の混乱、電力の逼迫など、新型コロナによって疲弊してきた地域経済への影響は大きく、何よりも深刻なのは、「職員の不足」が原因で、未だに被害の全容が明らかになっていないことです。

医療や介護はじめ、運輸や土木などの分野においても、「人への投資」「公共サービスへの投資」を拡充させていかなければ、「市民の暮らし」を守ることは出来ません。

第二は、参議院選挙闘争に勝利し、社民フォーラム組織の拡大強化をめざす取り組みです。

貧困と格差のない平和な郡山を築いていくためには、自公政権に対峙し、「弱者切り捨て」を許さない政治に変えていかなければなりません。

立憲民主党「馬場雄基」衆議院議員に続き、「小野寺あきこ」参議院議員を「郡山」から送り出していくため、社民フォーラム及び立憲

民主党への加入、入党を推し進めます。

第三は、平和憲法を守る取り組みです。

自公政権は、維新の会に加え、国民民主党をも巻き込み、新型コロナやロシアのウクライナ侵攻を口実に、「緊急事態条項」を改憲案に盛り込むべく画策しています。

緊急事態条項は、アドルフ・ヒトラーの「全権委任法」と本質的に変わりなく、議会制民主主義を壊滅させ、専制君主をつくり出すものであり、絶対に認められません。

平和フォーラムなどとともに、「改憲阻止の運動」を強化します。

以上、宣言します。

2022年4月9日

郡山社会民主主義フォーラム第2回定期大会

平和と環境を考える

(日時) 5月14日(土) 18時開場

(場所) 郡山市中央公民館多目的大ホール

(規模) 200～400名

(お知らせ) このイベントは新型コロナ感染拡大のため中止しました。